



新年のご挨拶

理事長 中澤 護朗



組合員そしてご家族の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

はじめに、組合として非常に厳しい状況下、組合会議員、理事、支部国保長のお力添えで無事に年を越すことが出来ました。ご協力に感謝申し上げます。

さて、昨年我が国の医療費の総額は国の予算の約半分近くで40兆円程度と発表されています。その後も医療費の増加に歯止めがかからない状況のなか、政府もその対策として、先端医療の見直し、特定健診の受診率の向上による高額療養費の削減、ジェネリック医薬品の推進による薬代の削減等、医療費抑制にいろいろと頭を悩ませているところです。そのしわ寄せは治療を受けた本人、そして税理士国保、市町村国保等、各事業体に負担を強めているのが実情です。

当組合の平成27年度予算でも国に支払う納付金・支援金の総額は約19億円と5年前に比較すると1.2倍、予算比にすると3割程になります。この傾向は今後増えることはあっても減ることはないと思われます。

この現実をふまえ我々執行部一同“禪を締めなおして”組合運営に取り組む所存です。それをどのように実行するべきなのかを考えると、思い出したのは若い頃愛読していた書のなかに松下電器の創業者、松下幸之助氏の「不況克服の十カ条」という教訓の一文があり、紹介し参考にしたいと思います。

その「不況克服の十カ条」とは

1. “不況またよし”と考える。
2. 原点に返って志を堅持する。
3. 再点検して自らの力を正しくつかむ。
4. 不退転の覚悟で取り組む。
5. 旧来の慣習、慣行、常識を打ち破る。
6. 時には一服して待つ。
7. 人材育成に力を注ぐ。
8. “責任は我にあり”の自覚を。
9. 打てば響く組織づくりを進める。
10. 日頃からなすべきをなしておく。

いま国保組合を取り巻く環境はまさに不況そのものです。この厳しい環境下で我々執行部が組合運営に当たり、何をなすべきか、この十カ条の教えの中に見出したいと思います。

まず気持ちを **ポジティブ** にもち大波小波おおいに結構、みんなで乗り切ろうぜという気持ちで、温故知新（大好きな言葉です）その時代に応じた適切で前向きな見直しも絶対に必要なことであります。またこの時期にこそ国保の役員、組合会議員、事務局の人材の確保育成に力を注ぎ、未来に向かっての組織作りをすることが急務だと考えその推進に力を注ぎます。

今年の組合運営の重点項目として皆様が自身の健康管理に留意し、国保は保健事業をより充実させ被保険者に“組合に入っていて良かった”と言われるよう努力致します。

年頭にあたり皆様のご指導ご協力をお願いして、ご挨拶とします。